

1 安全・安心ふくいプログラム2025-2026の策定について

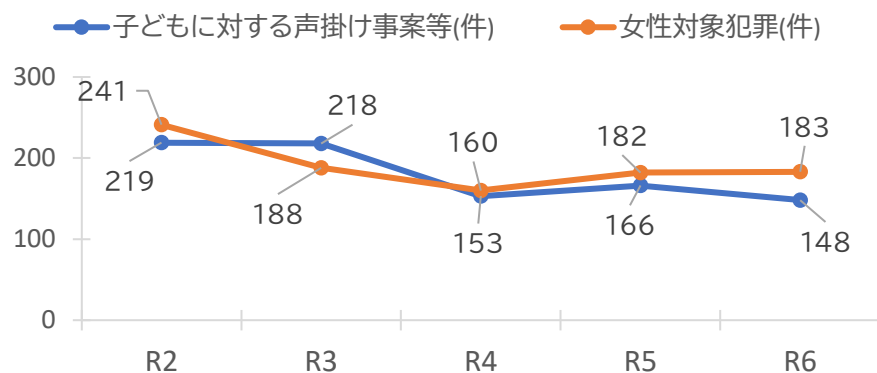
現 状

刑法犯認知件数は平成14年から約8割減少(H14 13,884件、R6 2,972件)

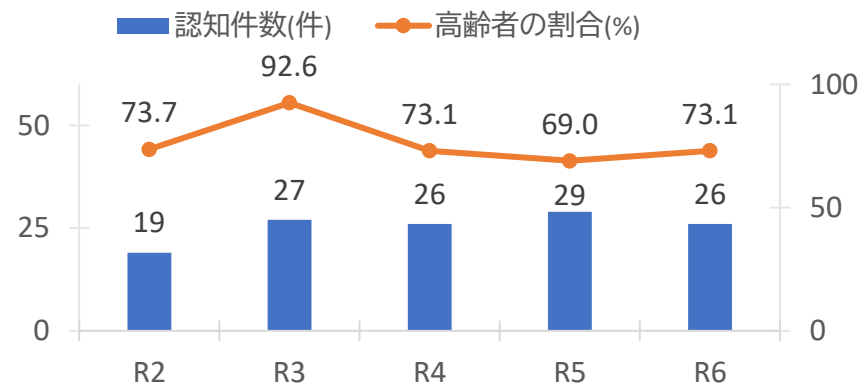
交通事故死者数は平成14年から減少(H14 78人、R6 23人、R5 20人(過去最少))

課 題

子ども・女性の安全を脅かす事案が後を絶たない



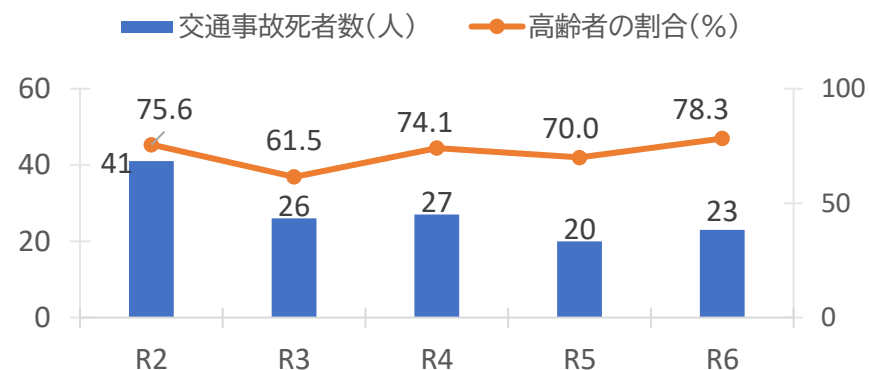
特殊詐欺被害の高齢者割合が7割以上



サイバー犯罪等の相談件数が増加



交通事故死者の高齢者割合が約8割



数値目標

重要犯罪の検挙率 100パーセント

年間交通事故死者数 20人以下

1 安全・安心ふくいプログラム2025－2026の策定について

県の主な取組

子ども、女性、高齢者を犯罪から守る対策

子ども 声掛け事案等防止のため夕方見守り運動協力店を拡大
女性 相談窓口の一本化、多様化するニーズに応じた相談支援を推進
高齢者 悪質商法等による被害防止のため出前講座等による啓発を推進

犯罪の起きにくい社会づくり

防犯インフラ整備の支援、防犯資機材の有効性の啓発を推進

交通事故から県民を守る対策

ドライバー 横断歩道における歩行者優先意識の定着に向けた啓発を強化
歩行者 横断歩道での手挙げを促進
高齢者 サポカーへの乗換、反射材の着用を促進

サイバー犯罪から県民を守る対策

高齢者 デジタル機器の安全利用に向けたスキルアップ支援を推進
子ども 親子参加型イベント等でのインターネットの安全活用を促進

1 安全・安心ふくいプログラム2025－2026の策定について

警察の主な取組

子ども、女性、高齢者を守る対策

県内の情勢	県民意識調査の結果	新プログラムの取組
・子どもに対する声掛け事案等は依然発生 ・特殊詐欺被害の高齢者の割合は7割以上	・子どもの連れ去り、声掛け事案、特殊詐欺に対する不安 ・防犯カメラの設置拡充やパトロールなどの要望	・地域社会が一体となった安全対策の推進 ・金融機関等と連携した特殊詐欺被害防止対策の推進

犯罪の起きにくい社会づくり

県内の情勢	県民意識調査の結果	新プログラムの取組
・SNS型投資・ロマンス詐欺の認知・相談件数が大幅に増加 ・刑法犯認知件数は増加傾向	・最新の犯罪手口に関する情報提供の要望が最多 ・防犯カメラの設置拡充やパトロール等の要望	・「県警アプリ」による防犯情報の提供、自主防犯活動の活性化 ・防犯カメラの設置・運用に関する助言・指導

1 安全・安心ふくいプログラム2025－2026の策定について

警察の主な取組

交通事故から県民を守る対策

県内の情勢	県民意識調査の結果		新プログラムの取組
・交通事故死者数は減少傾向（R5年の20人は戦後最少） ・死者に占める高齢者の割合は約8割	・悪質・危険な交通違反に対する不安 ・参加・体験型の交通安全教育、声掛け・安全指導などの要望		・悪質・危険な交通違反に対する指導取締り ・参加・体験型の交通安全教育、声掛け、保護誘導活動

サイバー犯罪から県民を守る対策

県内の情勢	県民意識調査の結果		新プログラムの取組
・サイバー犯罪等の相談受理件数は大幅に増加 ・不正アクセスやネットワーク利用犯罪が発生	・違法・有害情報の削除要請や手口情報の提供などの要望 ・被害に遭った場合の対処方法等の情報提供の要望		・AIを活用したサイバーパトロール、削除依頼、個別警告 ・ボランティアと連携した若年層への広報啓発